

## 不育症・流産の精査を契機に発見された染色体異常を持つ夫婦に向けた遺伝カウンセリングの実施状況

1998年から2016年までに、不育症・流産の精査のためにご夫婦の染色体検査を受け、結果で変化を認めため遺伝診療科にて遺伝カウンセリングを受けた患者さん

### 研究協力をお願い

当科では「不育症・流産の精査を契機に発見された染色体異常を持つご夫婦に向けた遺伝カウンセリングの実施状況」という研究を行います。この研究は、1998年から2016年までに日本医科大学付属病院 遺伝診療科にて、不育症・流産の精査のためにご夫婦の染色体検査を受け結果で変化を認めため、遺伝カウンセリングを受けた患者さんの臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の間い合わせ先へご連絡下さい。

### (1) 研究の概要について

研究課題名：不育症・流産の精査を契機に発見された染色体異常を持つご夫婦に向けた遺伝カウンセリングの実施状況  
研究期間：2016年8月1日（倫理審査承認日）～2018年7月31日  
研究責任者：日本医科大学付属病院 遺伝診療科 渡邊 淳

### (2) 研究の意義、目的について

不育症・流産の精査のためにご夫婦の染色体検査を受け結果で変化を認められた方は、ご本人の健康状態には問題が無く、健康管理にも影響はしません。しかし、妊娠した際の流産や児の症状に影響することが考えられます。そのため、染色体検査結果で変化の認められたご夫婦が結果を考えていくうえでの、心理的サポートも含めた遺伝カウンセリングを当院では実施しています。今回、その意義や有用性について明らかにすることを目的とします。

### (3) 研究の方法について

1998年から2016年までに日本医科大学付属病院遺伝診療科にて、不育症・流産の精査のためにご夫婦の染色体検査を受け、結果で変化を認めために遺伝カウンセリングを受けた患者さんの、遺伝カウンセリング内容や臨床情報を調査し、よりよい遺伝カウンセリングや診療体制について検証します。

### (4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

### (5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。個人を直接特定できる情報は使用されません。

### (6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 遺伝診療科 部長 渡邊 淳  
〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5  
電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：6292  
メールアドレス：aw3703@nms.ac.jp